



号を栗水

文字にたくす

土屋源吾さん

(東町)



▲ 17文字に自分の心をたくすという土屋さん。

「自分の見たもの。感じたものをそのまま文字にすることです。なれてくれば、自然に句が浮かんできますよ——」と語る土屋さん。栗江会(大正時代に発足・会員約二十名)の代表、横芝俳壇など

皆さんの日常生活の中で、いろいろな出来事、生活上の知恵などありましたら、何でも結構ですので役場内広報係(☎②1115)までご連絡ください。また、記事中に掲載されている写真をご希望の方、お譲りします。

で知られる、栗水こと土屋源吾さん。両親の影響を受けて、幼い時から俳句を作るようになったそうです。栗山川の近くに住んでいたことから「栗水」という号を、称すようになったということです。また、土屋さんは、古文書や刀剣などにも興味があり、それらの収集も行っているそうです。



横芝句会九月例会

石仏の風化の面白露かな 土屋 栗水
 竹買いが山を見に来る白露かな 石川 奇水
 水楠にさらりとつかね秋桜 成田 様子
 大根の双葉地を割る白露かな 宇井 芝童
 すがれ葉に小茄子一つの白露かな 藤代 ゆう
 蜘蛛の糸きら／＼光る白露かな 向後 雅子

火災の問い合わせは

04797
(3)3500700

火災が発生し、消防車のサイレンが鳴りますと、八日市場消防署横芝分署と役場に火災現場などの問い合わせが殺到し、電話回線がマヒ状態になり、消防業務の運用に支障をきたしています。この解消と住民の利便をはかるために、消防署指令室にオートガイドシステムによる自動案内装置が、設置してあります。



朝刊をひろげて白露の日をさとり 鈴木 南知
 庭石にコスモスの影の影 津田 若菜
 種ものあれこれ求む白露かな 木下石果子
 白露にぬれて忌日の供華を剪る 佐久間久子
 白露より日和つぎに救はるる 高橋 新司
 挿してある婦警の卓の秋桜 安井ゆづる
 コスモスの風にわかれしもつれ蝶 佐久間実枝子
 草野球外野はコスモス乱れ咲き 原 ひさし
 白露にしっとり濡るる稲架の稲 伊藤 保人
 寄り添ふてコスモスさやか友の句 古谷 紅雲
 次 回 日時 十一月十一日(火)
 兼題 立冬 木の葉髪